

山麓探偵団通信

4月号

二十年前の山中湖畔では、三月下旬から四月上旬にかけて、フキノトウが顔をだし、花が開く前に摘み取ることができた。

しかし最近では、なにが原因か十八番(おほこ)の場所を二週間は早く見回らないと、すでに花が開いてしまっている。そんなわけで、早く行かなきゃと、三月上旬にいつもの土手に足を運んだら、すでに摘み取られたあとだった。ああ、残念無念!

近くのリゾートマンションに犬連れで宿泊する観光客の、なんて早起きなこと、朝の五時には犬の散歩、そしてフキノトウもすっかり摘んで、彼らはリゾートライフを満喫している。

もたもたしている地元民は、共に散歩する犬がいらないからだと、つまらない言い訳をして、空っぽのビニール袋をふわふわさせて憮然と帰宅。ふと、風にはこぼれて、味噌汁にかべたフキノトウの香り、どこからともなく香ってきて、ああ、そうか、隣家には去年嫁さんがきたんだっけと、ほほえましい気持ちになった。長らく男所帯だった家で、ふたび朝餉のしたくがされている。

共に散歩する犬がいなくても、^{スミ}台所に立つ者がいれば、フキノトウは、代々摘まれるものなのだ、山の幸はみんな分けて合えばいいじゃないかと、収穫ゼロをふつとぼす、思いがけない感慨があった。



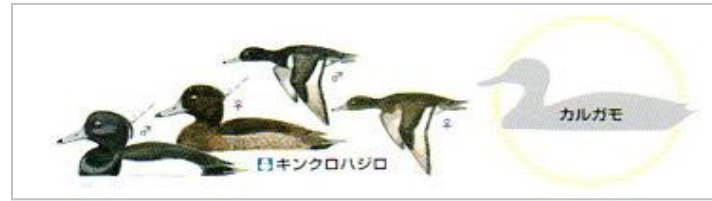
三月十一日(木)の探偵団感想

この日は、東富士演習場のはじ、元フェニックス短大の裏に位置する調整池をのんびり一周した。

運良くポカポカ陽気の中、アブラチャンの花芽を発見したり、草木の種をついばむカシラダカ、ヒシバツタ、コモリグモ(巣をはらない徘徊性のクモ)を観察できた。

峠をひとつ越えただけなのに、ここにはすでに春の小川がある。さらさらした湧き水には、ヤマアカガエルの卵が山ほど産みつけられ、カエル合戦の舞台となりつつある。カエルのオスが、数少ないメスを争奪しながら、産卵と受精を共同作業するその過程を、カエル合戦というのだと、昨年探偵団でおそわり、西桂のさくらセンターでじっくり観察したのは、一年前の四月だった。

調整池は、当然人造湖のため、水草がないと伊藤団長が説明。キンクロハジロ(鴨)のチャーミン



□ キンクロハジロ ◆ 黒白にツートカラー(雄) 冠羽に黄色い目
湖沼、河川、湾に飛来。雄は冠羽が後頭部に垂れている。雌はくちばしの付け根に白い斑があるものはいるが、スズガモの斑より小型。

(財)日本野鳥の会「新水辺の鳥」より

グな泳ぎを眺めたが、実はもつとユーモラスな場面に遭遇した。池端に立つカーブミラーに自分の姿を映し、見とれているのか、微動だにしない一羽のカワウ。昼になっても、午後になっても、その一羽はずっと同じ姿勢でいて、探偵団員から、感動とも同情ともつかない声援を浴びたのだった。帰り道、ハンノキには、葉の冬芽と花の冬芽のあることをおそわったり、団長のプロミナーで双子山や小富士付近を間近に観て、まるで春の遠足みたいなおだやかな一日を過ごさせてもらった。

(N・H)

◆ 四月の探偵団活動のご案内

厳しかった冬も過ぎ、山麓にもやつと春がやってきました。さわやかな風と新緑に包まれて、人も動物も、そして虫たちも嬉しくなる季節です。

そんな四月のよき日を、伊藤浩美カメラマンを団長に、山麓の花見というのは、いかがでしょう。万障お繰り合わせの上、ぜひ大勢のご参加をお待ちしています。

- ・ 四月十五日(木) 十七日(土)
- ・ 集合 朝9時30分
- ・ 場所 森の喫茶室あみん
- ・ 参加費 2300円
- ・ 持ち物 昼食・雨具・マイカッ

○ 申し込み・問い合わせは三日前までに、電話かメールでお願いします。

◆ お知らせ

五月は十三日(木) 十五日を予定しています。

◎ 皆さまからのご提案、ご希望のメニューも受け付けています。

発行 山麓探偵団 事務局
山梨県山中湖村平野一六九八
電話 〇五五五・六五・七〇二三